

木屋平中学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①少人数での授業方法の工夫と改善
- ②学校と家庭との役割分担による家庭での学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
橋本 美友紀	1学年担任:吉川 和真 2学年担任:木内 健士郎 3学年担任・進学主任:三河 祐太, 特別支援コーディネーター:森 真希子

校長

増井 進

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	授業に積極的に参加し、真面目に取り組もうとする意欲が見られる生徒が多い。 基礎基本となる国語科の「読み書き」や数学科の「計算」については、一定の成果が見られる。	定期テストで、基礎・基本的な事項を理解している生徒の割合を80%以上にする。また、自己の課題に即した家庭学習の提出率を80%以上にする。	これまでの取り組みを継続して行うとともに、各教科における小テスト等での基礎・基本の定着により一層取り組む。また、自主学習ノートや宿題等の内容や方法を具体的に提示し、次時につながるような取り組みになるよう工夫する。		
課 題	基礎基本の定着には一定の成果が見られるが、中には学習に対し困り感を抱いている生徒もいる。そのため、各授業での学力向上につながる活動が課題である。また、家庭学習の習慣が定着しにくい傾向があるため、学習の仕方を教えるなどの支援が必要である。	①授業のめあてや進度を明示し、授業の流れを分かりやすくする。そして、家庭で振り返りがしやすい授業をする。 ②計画的に宿題を出すことで、家庭学習の充実を図る。 ③各教科で系統だった内容のプリント等を工夫し、使用する。	①学校評価アンケートで「授業は分かりやすい」と答える生徒の割合を80%以上にする。 ②ノートやプリントなど計画的に宿題を出す。 ③各教科で基礎・基本の定着を図る小テストを単元ごとに実施する。	評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	各教科や特別活動等において、意欲的に授業に参加し、自らの意見を述べる事ができる。	自分の意見を表現する際に、根拠を提示しながら述べる事ができる生徒を60%以上にする。	各教科の授業の中で、意見を発表する際など、根拠に基づいて自らの意見を表現するような機会をつくる。 ・月1回程度の校内研修を通し、教科横断的に授業の研究を行うことで、有効な手立てを共有し、より一層分かりやすい授業づくりに取り組む。		
課 題	自分の考えや意見の根拠となる情報を、収集したり選択する力、また、根拠に基づき筋道を立てて適切に表現する力には課題がある。	①毎時間の授業での目標を明確に提示する。各教科、特別活動等教育活動の中で、自分の意見を考え、根拠に基づいて発表したり、文章にしたりする場を設定する。 ②研究授業や研修を行い、教員間で有効な手立てを共有する。	①各教科等で、単元や活動が終わった際に、自分の意見を発表したり、文章にしてまとめたりする活動を設ける。 ②月1回程度校内研修を行い、教職員間で情報を共有する。	評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	落ち着いた学習に取り組む、学習や生活の決まりを守って学校生活を送ることができている。	「分からないことをあきらめないで、考える」「疑問に思うことを自分で調べている」と答える生徒の割合を60%以上にする。	これまでの取り組みを継続して行うとともに、授業や行事、生徒会活動などを通し、積極的に取り組むとともに、主体的に考え、行動することで楽しさや喜びが高まるよう取り組みを行う。		
課 題	難しいことでも、最後まであきらめない気持ちや、疑問に思ったことについて、追求しようとする意欲が乏しい。	①生徒の主体的な体験や活動を授業に多く取り入れることで、自ら学び追求する意欲を高める。 ②ICT機器を効果的に活用し、生徒の学習への興味・関心を高める。 ③各教科で家庭学習を工夫するとともに、各家庭と連携し、家庭学習の習慣化を図る。	①、②、③について教員アンケートで、全ての教員が「概ねできている」または「できている」と答えることができる。	評価	次年度における改善事項

平成29年度 学力向上ロードマップ

